

# #MeToo

受験生の頃、「#MeToo」運動が世界的に広がり、SNSの影響力はもちろん、その限界や負の側面についても考えさせられました。この運動を起こした女性たちが「THE SILENCE BREAKERS」として取り上げられたアメリカのニュース雑誌の表紙写真も強烈なインパクトがありました。言葉や映像、広告が人や社会にどのような影響を与えるのかを学んでみたいと思ったきっかけの一つです。大学に入ってから、興味の幅がぐっと広がったのを感じます。例えば、自分には縁遠いと思っていた「プログラミング」。やってみると「翻訳」のような感じで、**文系の私力を発揮できる分野**だと分かりました。また、「法」に関する知識と理解は、私が目指す映画業界においても不可欠なものだと実感しています。これから貪欲に吸収していきたいです。

田村優奈さん (筑波大学 附属高等学校出身)



# サイバーセキュリティ

2010年、イランの核燃料施設などにサイバー攻撃が仕掛けられた衝撃的なニュースを覚えているでしょうか。その後も、ヨーロッパの電力会社や韓国の銀行ATMなど、世界各地で**インフラ設備へのサイバー攻撃**の事例は数多く発生しています。電気、ガス、鉄道、水処理、ATMなどの社会インフラがICT(情報通信技術)に深く依存している現代、人々の生活や経済活動を守るうえで、そのシステムのサイバーセキュリティ確保は極めて重大な課題です。そして、こういった知見はいまや一部の技術者だけに求められるものではありません。

起こり得るリスクを見極め、必要な対策だけを行うための適切な判断をくだせる人材が、あらゆる組織で必要とされているのです。ほかにも、情報技術を駆使してより良い暮らしを実現するスマートシティ等の「スマート化」に取り組む領域では常にサイバーセキュリティのキャッチアップが必要となります。世界に目を転じれば、ASEANやアフリカ諸国ではその人材育成や普及啓発といったニーズもあります。現代のグローバル社会を取り巻く**新しくダイナミックな領域**で活躍したいという野心のある学生をお待ちしています。



松崎和賢 准教授

# AI

AI(人工知能)の進歩によって、あらゆる分野で処理の効率上がるということがよく言われるようになりました。労働の代替や危険な利用など、さまざまな懸念もありますが、**現在問題となっているのは、結局のところ、「AIを作る・使う側=人間」のあり方が問われるものであるように思います。**私は、授業と並行して機械学習の勉強を始めました。その後、教授から紹介された学内のイベント「データ分析フェスティバル」に参加し、そうした知識も生かしつつ、学食の購買履歴の分析に挑戦しました。今後は、「データマイニングとAI」の授業などでも、より深く勉強したいです。この分野に限らず、情報に関する学びの幅を広げたいと考えています。「情報」と「法」は、構築の仕方の違いはあれど**何らかの目的を成し遂げるためのシステム**という意味では似ている。そんな発見も新鮮で、毎日の授業が非常に面白いです。



津田敦哉さん (和光高等学校出身)

CHUO UNIVERSITY  
FACULTY OF  
GLOBAL INFORMATICS

# ITL 最前線で、未知数で、真ん中で。

「情報」と「法」の視点から、AI・IoT時代の新たなパラダイムを創造する——。未だ答えのない、そして、これからの社会の中心となり得る領域に挑みます。中央大学〈国際情報学部〉の1期生と共に、都心の真ん中で学びませんか。

# 忘れられる権利

「忘れられる権利」とは、インターネットの検索エンジンの検索結果から、個人情報や誹謗中傷などを消してもらおう場面で問題になる権利のこと。EUに比べて日本は「表現の自由」に重きをおく傾向にあります。個人的には、例えば過去の過ちが10年経っても明かされてしまうことに疑問を感じます。SNSなどで誰もが情報発信できる時代だからこそ、個人情報やプライバシーについて、日本でももっと活発な議論がなされるべきです。将来は海外で働くのが夢。法のあり方は文化や宗教観によっても異なるので、それらを踏まえて**グローバルな視点で社会課題を捉えることができる**ようになりたい。ここで英語+αの強みを身につけるつもりです。



アラン江玲奈さん (東京都立駒場高等学校出身)

# 個人情報保護

大手就職支援サイトが、学生の閲覧履歴などから内定辞退率をスコア化し、企業に提供していたというニュースがありました。行動履歴から消費者の嗜好を割り出して、ターゲティング広告やレコメンド機能に使うことは既に行われていますが、本件で問題だったのは、「人生の選択に関わる重要な情報」が「本人の同意を十分得ないまま外部提供されていた」という点です。それが採用決定に使われると「プロファイリング」の問題が出てきます。利用者がデータの使われ方を選べるようにすると同時に、企業はより丁寧なコミュニケーション手法を考える必要があるでしょう。AIの進化が進む中、**膨大なデータをビジネスに生かしつつ、個人情報を**



石井夏生利 教授

どう守るか。法規制のあり方も変わり得るでしょう。ちなみに、EUの個人情報保護法にあたるGDPR(一般データ保護規則)は、「世界一厳しい」といわれます。GDPRの規制はEUでビジネスを行う日本の企業にも当然関わりがありますし、厳しい規制の背景にナチス時代の教訓から基本的人権を保障する思想が強いということも理解すべきです。**法やITの深い理解とグローバルな教養**は、皆さんが活躍できるフィールドの選択肢を確実に広げてくれるはず。ここ国際情報学部から世界へと巣立ってくれることを願っています。



小崎愛華さん (東京女子学園高等学校出身)

# キャッシュレス

1年次のゼミナール「基礎演習」で取り組んだテーマは「キャッシュレス化」。キャッシュレス化推進の動きが盛り上がっている中、折しも、大手コンビニのQRコード決済システムの不正アクセス被害が発覚。**個人情報が漏洩するのでは**という消費者の最大の懸念が現実化していることに、驚きと危機感を持ちました。また特に日本では、**高齢者のデジタル・デバイスへの対応**も注力すべき課題の一つだと思います。入学後すぐにこういった実践的な学びができるのは、大変ですがやりがいも十分。基礎演習で身につけた、論文・レポートの書き方、文献の調べ方、プレゼンする方法などは、今後の研究活動の礎になると思います。

## 中央大学〈国際情報学部〉は2020年、第2期生を迎えます。



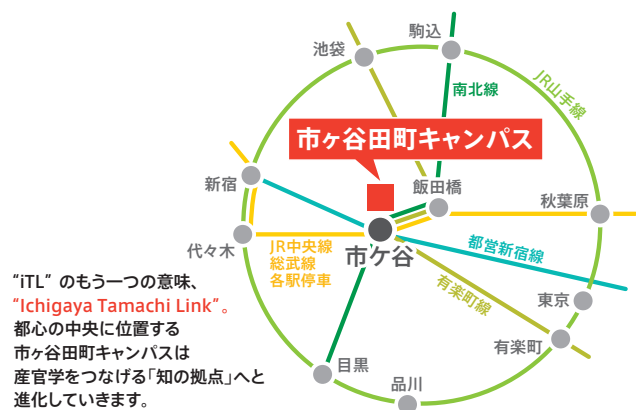
国際情報学部を表す「ITL」とは、「Information Technology & Law」、すなわち、「情報の仕組み」と「情報の法学」の融合のこと。Society 5.0には、情報と法の双方に精通した人材が不可欠なのです。もちろん、グローバルな価値観や文化を理解する「教養」も大切です。1学年約150人という少人数の恵まれた環境下で、最前線の学びに挑戦しませんか? 使命感とやる気に満ちた皆さんをお待ちしています。



### 国際情報学部 国際情報学科

市ヶ谷田町キャンパス  
東京都新宿区市ヶ谷田町1-18 TEL.03-3513-0307  
www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/itl/  
11/16日に「国際情報学部 秋の入試説明会」を実施します。  
お申し込みはこちら▶

12/7日・13日・14日・19日・23日の5日間、中央大学の「出願直前相談会」を実施します。  
お申し込みはこちら▶



「ITL」のもう一つの意味、「Ichigaya Tamachi Link」。都心の中央に位置する市ヶ谷田町キャンパスは産官学をつなげる「知の拠点」へと進化していきます。

